

2022 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [追手門学院中・高等学校] 担当教諭名 [田橋 知直] (1年A・B・C組 61名)

相手国・地域 [ネパール]

海外学校名 [Gorkha International Public Secondary School] 担当教諭名 [Thamman Basnet]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	HR	Artmile	4
	特別活動	English Days	12
	課外活動	Artmile	8

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	No Poverty
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	High-Techも Low-Techも、様々な知恵や手法を国境を越えて集めることで地域の問題を解決しよう！



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
事前学習の段階で、大学教員や留学生といった多様なスタッフと接する環境の中で調べ学習やプレゼンテーションの作成ができた。	相手校との意思の疎通がうまくいかず、展開の仕方や着地点などにズレが生じてしまった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
顔の見える相手と、具体的にやりとりをすることで、「世界のこと」が少しでも「自分事」に感じられるようになった。	あまり変化は見られなかった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	7月	大学教員や語学学校のスタッフのヘルプを得ながら、貧困に関してネパールの現状や日本の現状・課題への対策について調べた。	日本国内にある貧困に初めて目を向けた生徒が多く、おどろいていた。	特活12
共有 相手と意見交換	7月 ～ 10月	調べた内容をビデオレターで共有。相手校からも、ビデオレターおよび作品(絵画)で返信。	相手校の描いた「貧困にまつわる課題点」を鑑賞して、日本の感覚との違いや、その表現方法の違いに感銘を受けた。	HR1
融合 メッセージ作成	11月	共有ステージでわかった内容をもとに、その問題に対する解決策をグループごとに考え、フォーラムを通して相手校へ提示した。	共有ステージで学んだ、自分たちには思いもよらない世界の問題を、自分たちの身の回りにあるテクノロジーで解決する方法を考えることを楽しんでいった。	HR2
創造 壁画制作	12月 ～ 2月	放課後に有志メンバー(12名)でデザイン・ペイントをした。	普段あまり行事ごとに真剣でない生徒も真剣に取り組み、周囲からの見方が変わった。もともと積極的な生徒は心から楽しんでいった。	課外8
評価 振り返り 自己評価	3月	学年での壁画の鑑賞、クラスごとでの意見交換、Google Formへの回答。	同じ内容の学習でも、全く違う感じ方をしていることがわかった。	HR1

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	ネパールのことを理解する力はもちろんのこと、その視点を通して自国の文化をみつめなおすことができたのは大きな成果である。日常の学習では得られない経験が出来た。
主体的に考え行動する力	3	やや教員主導になってしまい、生徒の自由度の部分が少なかった。壁画デザイン・制作に限定しては主体性を発揮できた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	5	ネパールの生徒の意見を聞き、それを受けてクラスメート同士で意見交換をした際に、必ずしも自分と同じ受け止めを周囲がするとは限らず、かえって海の向こうの仲間と似たような考えを持っていることに気づくことができた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	3	協働の部分については成果が見られたが、「対話」についてはオンライン交流などを持たなかった関係もあり、十分とは言えない。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	両校の事前学習が一定のクオリティを持っていたため、強い思いをもって壁画デザイン・制作に臨むことができた。「形」にする部分で、もう少し絵画的な表現ができるとより良かった。